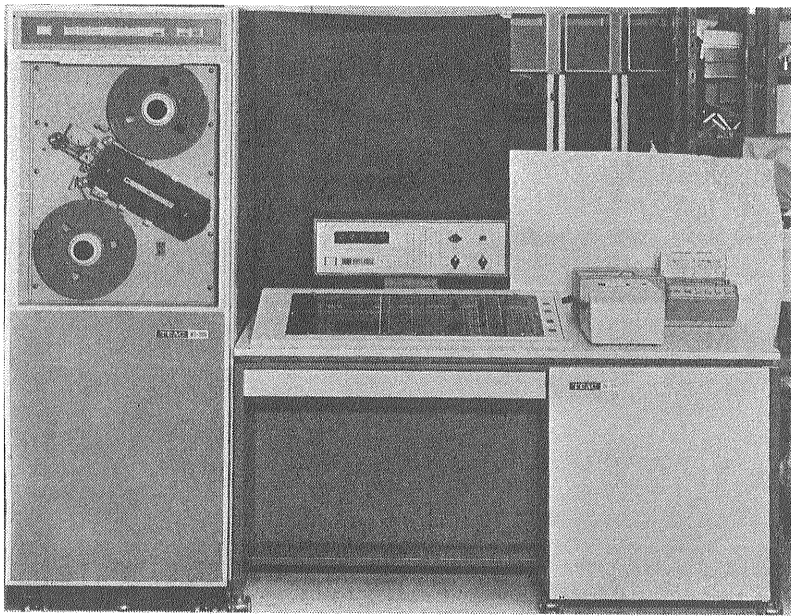


れからの世界では 自らを知ることは 総力をあげて闘うことを求められた戦争中よりはるかに重大なこととなる。面積からいえば三流の国土で一流の大国が生きてゆくのであるから わが国にとって国土の経営は 国土の広い通常の大国よりはるかにきついこととなるであろう。鉱産誌を作る過程で作った資料などは 本を出して安心してしまわず その後の活用のための共有財産化を本来考える必要があったはずである。さきに鉱山資料のことを述べたが たとえば火山性地すべり地は低品位の熱水性粘土鉱床である。事実 通常の地すべりの常識では 地すべりはモンモリロナイトが引きおこすことになっているが この場合は凝灰岩源の非晶物質のテイソトロピー性が原因であることを 粘土鉱床の専門家の調査によって明らかとなった。すなわちカオリン

鉱床や金 地熱などの既存資料の整理ができていれば防災の課題にもきわめてすばやく(直線的とまでいかなくとも) 問題の抽出にたどりつけることをこの例は示しているといえよう。こういう過去の種々の調査資料はそれだけに終わらせないようにする気持ちさえあれば電子計算機を駆使することによって整理でき ヒントを人に提供できることを示唆しているといえよう。

これまで地質関係者は 単能機器を使って もっとも高度な判定を行ってきた。それでも地質専攻者にとってはそれらの中の高級機器は経費がすばぬけて高くそれにかかるまでの準備や操作と測定結果の整理 解析にずい分手間がかかり 得られる知識は(多くの仮定があるため) 硬直で 時にはなじみにくい(活用しがたい)ものとの印象が起きても不思議でないものであった。しかし電子計算機はそれに比べると多用的であるが 働かせる側の能力に応じた返事しか返ってこない。パターンに対しても(機械は本当は不得手なのであるが) 処理能力をある程度もっているのだから そういふつもりで使う人にはそれなりの応答をよこすものと考えたらよいと思ひ筆をとった。

(筆者らは元所員 現国立防災科学技術センター * 国立防災科学技術センター)



写真②
情報検索用電子計算機(1例)
長いプログラムを作ったり 項目をコーディングしなくても ホールソートと同じように80ランカードの1つの孔に1つの意味をもたせることができる。また情報を自然言語で書きこんだり呼び出したりもできる

地学と切手



ハシ・メサウド油田
P. Q.
1959年5月23日にフランスで発行された多色刷切手で画面には石油井掘き用の巨大なロータリー試錐機とブージー港までの油送管の配置図が画かれている。ハシ・メサウド油田は 1962年にフランスから独立した アルジ

エリアのサハラ砂漠北部に位置する。アルジェリアは石油 天然ガス 鉄 マンガン 燐鉱石など豊富な地下資源を有している。サハラ砂漠に石油が埋蔵されていることは 第2次大戦前から知られており 戦後フランスの石油探査局が巨額の探鉱資金を投じて 1956年にエジユレおよびハシ・メサウド油田を発見した。ハシ・メサウド油田は アルジェリアの石油生産量 4,771万kl(1967年)の約40%を生産し この油を地中海まで運ぶために1959年に ブージー港まで630kmの幹線油送管が敷設された。アルジェリアの石油生産量は 1967年の統計で 世界第1位であるアメリカの10分の1弱日本の50倍強である。